

各関係機関の皆様へ

農業技術防除センター病害虫防除部長

大豆でのハスモンヨトウ以外のチョウ目幼虫による被害の発生について

県内の一部地域の大豆圃場において、オオタバコガやツメクサガの仲間によると思われる葉の食害が認められています。

については、下記を参考に各圃場で発生状況を確認し注意するよう、生産者への指導をお願いします。

記

1. 発生状況

1) 県内南部の一部地域の大豆において、ハスモンヨトウによる食害とは異なり、若い葉を中心に葉脈だけを残して激しく食害される被害が認められた(写真1)。なお、被害の程度は、地域または圃場により差がみられた。

2) 食害が進んだ株においても、寄生する幼虫は少なかったが、オオタバコガ(写真2)とツメクサガと思われるチョウ目幼虫(写真3)が認められた。なお、ツメクサガと思われる幼虫については、現在、種を確認中である。



写真1 葉脈だけが残された被害



写真2 大豆に寄生したオオタバコガ



写真3 大豆に寄生したツメクサガと思われる幼虫（左：中齢幼虫、右：老齢幼虫）

2. 大豆での生態、被害及び防除対策

【オオタバコガ】

1) 生態及び被害

- ・年3～4回世代を繰り返す。
- ・卵は1粒ずつ産みつけられる。大豆での被害は、ハスモンヨトウとは異なり、葉が食害されても白変葉とならず、葉や茎を暴食する。また、莢も加害するため、被害は大きい。
- ・幼虫は広食性で、レタス、トマト、ナスなどの野菜類、マメ科作物、花き類など多くの作物を加害する。

2) 防除対策

- ・幼虫の齢期が進むと薬剤の効果低下するので、若齢期にかけむらがないよう薬剤防除を行う。

登録農薬：アタブロン乳剤、プレバソンフロアブル

【ツメクサガ】

1) 生態及び被害

- ・西南暖地では年3回以上発生を繰り返すとみられている。
- ・卵は1粒ずつ産みつけられる。大豆での被害は、若齢期は若い中心葉を綴り、薄膜を残す。成長すると、葉縁や内部から葉を食害し、葉脈だけを残す。さらに莢を食害する。
- ・大豆以外に、クローバ、アズキ、インゲンなどのマメ科作物やタバコやジャガイモなどのナス科作物を中心に加害する。

2) 防除対策

- ・若齢期にかけむらがないよう薬剤防除を行う。

登録農薬：フェニックスフロアブル、トレボン乳剤、トクチオン乳剤、ランネート45DF、エルサン乳剤

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部
 〒840 2205 佐賀市川副町南里 1088
 TEL (0952)45 8153 FAX (0952)45 5085